



水稲管理情報

イネの害虫編

令和2年3月
J A 志賀
能登南部営農推進協議会

暖冬による越冬害虫 「カメムシ、ツマグロヨコバイ」の多発に警戒！！

1 越冬害虫の翌春の発生

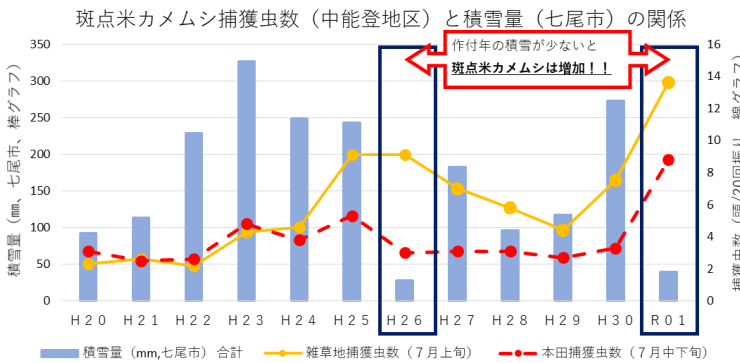
- 越冬害虫（カメムシ、ツマグロヨコバイなど）は、今年のような暖冬年では越冬中に死亡する虫が少なくなるため、翌春以降に多発します。

今年度冬期の気象状況

- ◇ 冬期の日平均気温はいずれも平年よりもかなり高い。
- ◇ 根雪期間及び積雪深がほとんどない。

図1 冬期（12月～1月）の日平均気温のR1年と平年の差

	12月	1月	2月
志賀町	+1.6	+2.4	+2.3



令和元年 カメムシ、ツマグロヨコバイの発生量が多い



暖冬のため、越冬中の死亡率が低い



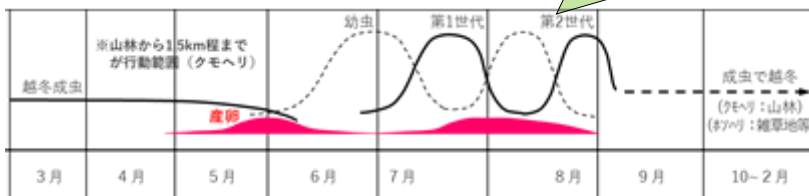
令和2年、害虫がさらに多発！？

2 越冬害虫の特徴と防除対策

< クモヘリカメムシの特徴 >

- ・ 飛翔性の大型のカメムシ類で、年2回発生。
- ・ スギやヒノキ等の樹木で越冬するため、山林から15km程度の範囲にあるほ場での発生が多い。
- ・ 吸汁力が強く、成虫が吸汁すると減収し、幼虫が吸汁すると品質低下(斑点米)の原因となる。
- ・ 近年、発生頭数が増えたため、早生だけでなくコシヒカリやひやくまん穀での吸汁被害(斑点米の発生)が増加している。

図2 クモヘリカメムシの発生消長



防除のポイント

< 収量や品質の確保には、2つの対策が必須です！！ >

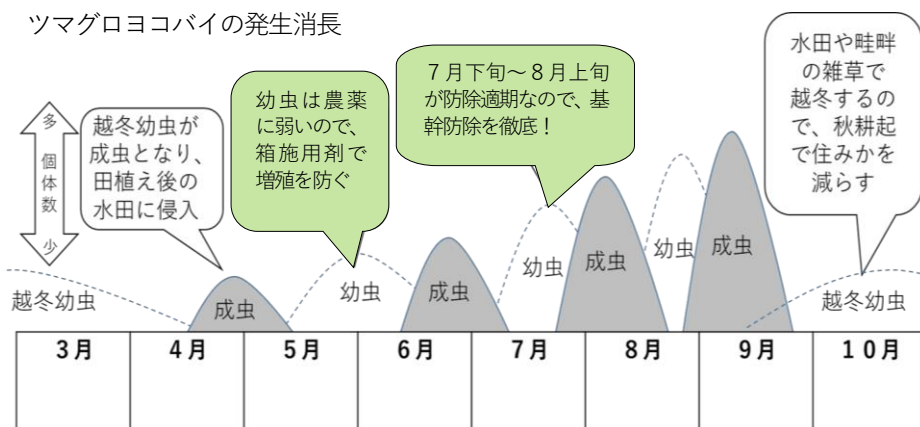
★ 原則：6月～7月上旬の農道や畦畔などの除草を徹底しましょう

★ トドメ：出穂期7日後と14日後の2回防除を行いましょう

< ツマグロヨコバイの特徴 >

- ・ 幼虫が水田や畦畔の冬草の間で越冬し、4月中旬～5月上旬に雑草地で成虫となる。
- ・ 移動距離が短いため、前年発生したほ場で再度発生する。
- ・ 穂ばらみ期以降、成虫が吸汁することにより稲の茎葉が黄化し、倒伏や減収の原因となる。
- ・ 稲体に付着した虫の排泄物にすす病菌が発生し、茎葉や穂部が黒く汚れていることが多い。

ツマグロヨコバイの発生活動



防除のポイント

< 終了や品質の確保には、2つの対策が必須です！！ >

★ 原則：ツマグロヨコバイに効果のある苗箱薬剤を必ず施用しましょう

播種時：アプライフェルテラ粒剤（JA 育苗センター水稻苗は施用済みです。）

移植時：Dr.オリゼフェルテラ粒剤

★ トドメ：出穂直後と出穂期7日後の2回防除を行いましょう

：越冬源となる再生株や稲わらを減らすため、秋起こしを必ず行いましょう

今年は必ず虫害対策を行い、収量・品質の確保に努めましょう

